



工藤 正廣
(明政一心会)

ペット愛護者への マナー指導の対策は さまざまな形で 啓発していきたい

議員 ペットは癒しのパートナーであり、家の中だけでなく、外も散歩させたいのは当然である。ペットの管理は飼い主に責任があることは明白であり、ルール、マナーを守り、ペットを飼っていない方達とお互いに安心、信頼を基本とすることが肝要と思う。ペット愛護者へのマナー指導やコミュニケーション施設の設置についてどう考えるか。

場所での配布に取り組みたいと考えています。コミュニケーション施設の設置については調査をしたことがないので、現時点では設置の考えはありません。

議員 人口減少を見据え、小さな市役所への改革が求められるが、二十年後の納税人口、納税額ほどのくらいか。また、二十年後の市職員数は何人くらいが適当か。

企画財政部長 二十年後の人口は約五万一千人と推計され、割合から試算した納税義務者は約二万四千人となり、約六千五百人減少すると予想されます。二十年後の納税額は、平成二十五年度の一人当たりの平均負担額が約七万六千円であり、先ほどの納税義務者数を乗じると約

民生部長 市では広報紙やホームページ、注意看板の設置、戸別指導などの啓発活動を通じて飼い主のマナー向上に取り組んでいます。今後の強化策として、県獣医師会上十三支部と連携してチラシを作成し、狂犬病予防接種の機会に飼い主に直接配布するとともに、動物病院など、ペット愛護者が多く集まる



飼い主のマナーが重要

十八億四千九百万円となり、約四億九千六百万円の減収になると予想されます。

市長 人口減少社会の中で、基本的には職員の人員を減らすことは必然ではありませんが、限られた予算の中で安定した行政運営を行うため、業務改善などの行政改革を推進し、組織の合理化と活性化を図り、長期的な視点に立った組織規模の適正化に努めたいと考えています。

小林川の汚水流出事故の対応は 再発防止に努めるよう指示



今泉 勝博
(市政・市民クラブ)

議員 七月二十六日に発生した小林川への汚水流出事故の状況と対応は。

市長 未明に米田地区にある農場施設にて豚舎内の給水管が破損し、大量の漏水が発生し、汚水となって小林川へ流出した

ものです。市では当日の早朝、直ちに担当職員を派遣し、事業者から聞き取り調査を行い、側溝内の残存汚水の除去、消毒の実施や報告書等の提出、地元町内会長への説明、謝罪等の指導等をするともに、県への通報を行いました。また、公害防止協定を締結している全ての事業者に対して、施設管理の徹底について文書で通知をいたしました。今回の事故を踏まえ、改めて再発防止に万全を期すよう担当部署に指示したところであります。

議員 公害防止協定に基づき立入調査は何名で、どのような調査を行っているのか。

民生部長 協定に基づく報告書の確認や記載等の指導、農場からの排水の水質測定場所やふん尿処理の状況の確認、そして協定の遵守の徹底のお願い等を行っています。また、正確な状況調査等を行う観点から、通常二名体制で行っています。



豊かな自然を残すために

議員 日本蕨苔類学会から奥入瀬溪流が日本の貴重なコケの森に認定されるが、仙ノ沢開拓地域に養豚場が建設された場合、悪臭等の影響はないのか。

観光商工部長 養豚場を建設する場合は、法令に基づき各種届け出が必要とされており、監督官庁等の適切な指導等のもと事業に取り組みむものと認識しています。現在計画されている養豚場では奥入瀬溪流を訪れる観光客に影響を及ぼすようなものとは考えません。